

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ありんこルーム			児童発達支援
○保護者評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	10
○従業員評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 12月 20日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 27日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各関係機関の銃砲をしっかりと共有していることで、実際子ども達に支援する際配慮することができる。	発達段階と特性を理解した上で、個別的な支援プログラムを進める。	情報を交換する中で、その時に合ったニーズや課題をしっかりと踏まえた上で支援にあたる。
2	広い室内の空間を利用して雨の日でも体を動かして遊ぶあそびが出来る。近くの神社や畑でのびのびと遊ぶことが出来る。	体を動かしてあそべる遊びと静かにあそべる遊びを取り入れしっかり動くとき、静かに過ごす時間が出る。	子ども同士で関われる時間を作り、ルールや約束、友達との距離感を知る場を作る。
3	体を動かしながら運動能力の向上	集団でのサーキットや運動遊びを行い、体の動かし方や、集団活動でのルールの理解を促す。	個別活動内容を充実させるため課題の製作、等。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスの利用者がほとんどである為、保護者の方と直接話す機会が限られてしまう。	保護者にとってはメリットである方も多いと思われるため、他の形で保護者様との連携をとれる手段を取り入れていく。	定期的に保護者会を行ったり、面談を行うことでより一層連携をとり更なる信頼関係の構築を図る。
2	来所の子どもが多い日や職員の休みが重なったりするとバタバタになり一人ひとりの子どもとの関わりが十分できないことがある。	子どもの人数に対する職員の人数やそれぞれの子どものも特性により1対1の対応が必要な場合もある。	事前に職員同士で話をしたり、その都度声かけやコミュニケーションをとり連携できるようにする。
3	客観的な指標となる評価などが不十分な点があり、支援の内容が不十分な点があり、支援の内容が主観的になってしまうことがある。	スタッフ間での共有認識を高める時間を確保することが難しい場合がある。	定期的な事業所内研修や事例検討会の充実を図ること。